

鑛業條例

(明治二十五年四月廿八日)

第一章 總則

第一條 凡鑛物ノ未ダ探掘ヲ許可セザルモノハ國ノ所有トス。

鑛物トハ金鑛(砂金ヲ除ク)銀鑛、銅鑛、鉛鑛、錫鑛、(砂鑛ヲ除ク)安質母尼鑛、水銀鑛、亞鉛鑛、鐵鑛、(砂鐵ヲ除ク)硫化鐵鑛、滿俺鑛、砒鑛、石炭、黑鉛、石油及硫黃ヲ謂フ。

第二條 凡鑛業ヲ爲シ又ハ鑛物ノ試掘ヲ爲ス者ハ總テ此ノ條例ニ據ルベシ。其ノ官業ニ屬スルモノ亦同ジ。

鑛業トハ鑛物ノ探掘及之ニ附屬スル事業ヲ謂フ。

第三條 農商務省鑛山局及鑛山監督署ノ官吏ハ在職中新ニ鑛業人トナリ又ハ鑛業ニ關スル組合若クハ會社ノ株主若クハ役員トナルコトヲ得ズ。

但相續ニ由リ新ニ鑛業人トナリ、鑛業ニ關スル組合若クハ會社ノ株主トナルハ此ノ限ニアラズ。

第二章

第四條 試掘ヲ爲サント欲スル者ハ所轄鑛山監督署ニ出願シ其ノ認可ヲ受クベシ。

第五條 試掘ハ認可ノ日ヨリ一ケ年ヲ限リトス。

第六條 試掘ニ依リ採取シタル鑛物ハ所轄鑛山監督署ノ認可ヲ得テ之ヲ販賣スルコトヲ得。

第七條 第六條ニ依リ鑛物ヲ販賣シタルトキハ三十日以内ニ其ノ販賣代價百分ノ二ヲ納ムベシ。

第八條 探掘ヲ爲サント欲スル者ハ探掘願書ニ鑛區圖ヲ添ヘ農商務大臣宛ニテ所轄鑛山監督署ニ差出スベシ。

探掘願書及鑛區圖ヲ同時ニ差出シ難キトキハ願書ノミヲ差出シ置キ、鑛區圖ハ願書ノ日付ヨリ五十日以内ニ之ヲ差出スコトヲ得、此ノ期限内ニ差出サルトキハ出願ヲ無効トス。

第九條 探掘ヲ出願スル者ハ出願地ニ於テ探掘セントスル鑛物ノ存在スルコトヲ證明スベシ。

前項ノ證明充分ナラザルカ、又ハ當該官吏ノ検査ニ依テ其ノ鑛物ノ存在ヲ認めザルトキハ出願ヲ無効トス。

第十條 鑛山監督署ニ於テハ探掘出願登録簿ヲ備ヘ置キ、鑛山監督署長ハ探掘願書到達日時ノ順序ヲ以テ之ヲ登録シ其ノ日時ヲ出願人ニ通知スベシ。

第十一條 探掘願書及鑛區圖ノ完備シタルトキハ鑛山監督署長ハ之ヲ農商務省鑛山局長ニ差出スベシ。

農商務省鑛山局長ハ鑛山監督署ヨリ差出シタル探掘願書及鑛區圖ヲ審査シ探掘ノ許可ヲ與フベキモノト認メタルトキハ、農商務大臣ノ認可ヲ經鑛業券下附ノ手續ヲ爲スベシ。

鑛業券ハ農商務大臣之ニ署名シ鑛山局長之ニ副署シ鑛區圖ヲ添ヘ之ヲ下附スベシ。

第十二條 二人以上出願ノ鑛區互ニ牴觸スルトキハ探掘願書登録ノ先後ヲ以テ其ノ許否ヲ定ム。

登録ノ日時同一ナルトキハ鑛山監督署長ハ其ノ旨ヲ各出願人ニ通知スベシ。

前項通知書ノ日付ヨリ六十日以内ニ各出願人協議シ各自出願ノ鑛區ニ於ケル牴觸ヲ解除スルニアラザレバ出願ヲ無効トス。

第十三條 探掘ノ許可公益ヲ害スト認メタルトキハ農商務大臣ハ其ノ出願ヲ許可セズ、又ハ既ニ與ヘタル許可ヲ取消スコトヲ得。

前項ニ依リ農商務大臣ニ於テ既ニ與ヘタル探掘ノ許可ヲ取消スコトアルモ、鑛業人ハ其ノ損害ノ賠償ヲ要求スルコトヲ得ズ。

第十四條 此ノ條例ニ依リ探掘ノ許可ヲ受ケタル鑛區内ノ鑛物ハ鑛業人ノ所有トス。

第十五條 探掘ノ許可ヲ得タル鑛區内ノ鑛物ハ賣與讓與シ若クハ共有トナシ、又ハ書入トナスコトヲ得ズ。

ヲ得、此ノ場合ニ於テハ所轄鑛山監督署ヲ經、農商務大臣ニ請求シ契約ノ登録ヲ受クベシ。登録ヲ受ケザル契約ハ第三者ニ對シ法律上其ノ效ナキモノトス。

第十六條 試掘及探掘ハ此ノ條例ニ依リ鑛區ニ加フベカラザル場所ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得ズ。

第十七條 他人試掘ノ年限中ハ其ノ認可ヲ受ケタル鑛物ニ就テハ探掘ノ出願ヲ爲スコトヲ得ズ。

第十八條 鐵道、國道、縣道、河湖、堤防沼、池、社寺墓地公園地家屋ヨリ地表地下共其ノ周圍三十間以内ノ場所ニ於テハ所轄官廳又ハ所有者ノ承諾ヲ經ルニアラザレバ試掘又ハ探掘ヲ爲スコトヲ得ズ。

第十九條 他人ノ認可ヲ得タル試掘地内ニ於テ、其ノ試掘人ノ未ダ認可ヲ得ザル鑛物ノ試掘又ハ探掘ヲ出願セント欲スル者ハ試掘人ノ承諾ヲ經ベシ。

試掘人自カラ試掘又ハ探掘ヲ出願セント欲スルカ、若クハ其ノ認可ヲ得タル鑛物ノ試掘ニ妨害アルトキノ外ハ試掘人ハ前項ノ承諾ヲ拒ムコトヲ得ズ。

第二十條 他人所屬ノ鑛區内ニ於テ其ノ鑛業人ノ未ダ試掘又ハ探掘ノ許可ヲ得ザル鑛物ニ付試掘若クハ探掘ヲ出願セント欲スル者ハ鑛業人ノ承諾ヲ經ベシ。

鑛業人自ラ試掘又ハ探掘ヲ出願セント欲スルカ、又ハ其ノ鑛物鑛業人ノ既ニ探掘ノ許可ヲ得タル鑛物ト同一ノ鑛床ニ在ルカ若クハ其ノ試掘又ハ探掘ノ爲メ鑛業ニ妨害アルトキノ外ハ鑛業人ハ前

項ノ承諾ヲ拒ムコトヲ得ズ。

第二十一條 鑛業人ハ此ノ條例ニ依リ所轄鑛山監督署長ノ認可ヲ受ケタル鑛業施業案ニ據ルニアラザレバ採掘ヲ爲スコトヲ得ズ。

第二十二條 鑛業人ハ毎年ノ鑛業施業案ヲ其ノ前年十月三十日マデニ其ノ初年ニ係ルモノハ採掘許可ノ日ヨリ三ヶ月以内ニ所轄鑛山監督署長ニ差出シ其ノ認可ヲ受クベシ。

前項ノ施業案ニシテ坑内ノ保安ニ害アリ、又ハ鑛利ヲ損スベキモノト認メタルトキハ、鑛山監督署長ハ其ノ由ヲ鑛業人ニ示シ期限ヲ定メ之ヲ改正セシムベシ。

第二十三條 鑛業人鑛業施業案又ハ其ノ改正案ヲ期限内ニ差出サバルトキハ農商務大臣ハ其ノ採掘ノ許可ヲ取消スコトヲ得。

第二十四條 鑛業人一ケ年以上休業シ又ハ採掘ノ許可ヲ得タル日ヨリ一ケ年以内ニ採掘ニ着手セザルトキハ、農商務大臣ハ其許可ヲ取消スコトヲ得。

第二十五條 鑛業人ハ坑内實測圖ニ葉ヲ調製シ一葉ハ所轄鑛山監督署ニ差出シ、一葉ハ鑛業事務所ニ備置キ事業ノ進歩ニ從テ之ヲ追補スベシ。

鑛業人若シ他人ノ所屬ニ係ル隣接鑛區ノ坑内ノ實測圖ニ付證明ヲ必要ト認ムルトキハ、之ヲ所轄鑛山監督署長ニ請求スルコトヲ得。

第二十六條 鑛業人鑛業券ヲ毀損若クハ亡失シタルトキハ、事由ヲ具シ所轄鑛山監督署ヲ經其ノ再下附ヲ農商務大臣ニ出願スルコトヲ得。

第二十七條 鑛業人ノ得タル採掘ノ許可詐僞ノ所爲ニ依リタルコトヲ發見シタルトキハ、農商務大臣ハ其ノ許可ヲ取消スベシ。若シ又其ノ許可ニ就キ利害ノ關係ヲ有スル者ニ於テ發見シタルトキハ、其ノ關係ヲ有スル者ハ其ノ許可ヲ受ケタル者ニ對シ採掘許可取消ノ裁定ヲ農商務大臣ニ請求スルコトヲ得。

前項採掘許可取消裁定ノ請求ハ許可ノ日ヨリ三十日ヲ期限トス。

第二十八條 試掘人第十九條第二項ノ場合ニ於テ、又ハ鑛業人第二十條第二項ノ場合ニ於テ理由ナクシテ其ノ承諾ヲ拒ミタルトキハ、關係人ハ所轄鑛山監督署長ノ判定ヲ請求スルコトヲ得。

前項ノ判定ニ服セザル者ハ三十日以内ニ農商務大臣ノ裁定ヲ請求スルコトヲ得。

第二十九條 第二十七條及第二十條ノ場合ニ於テ農商務大臣ノ裁定ニ對シテハ他ニ上訴スルコトヲ得ズ。

第三十條 第二十七條及第二十八條ニ係ル判定若クハ裁定ニ關スル費用ハ總テ民事訴訟入費ノ例ニ依リ負擔スベキモノトス。

第三十一條 鑛業人廢業シタルトキハ採掘ノ許可其ノ效ヲ失フモノトス。

第三十二條 第十三條第二十三條第二十四條第二十七條及第七十五條ニ依リ農商務大臣ニ於テ探掘ノ許可ヲ取消シ、又ハ第三十一條ニ依リ探掘ノ許可其ノ效ヲ失シタル場合ニ於テハ、鑛區内ノ鑛物ニ對シ抵當權ヲ有スル債主ハ其ノ抵當權ヲ失フモノトス。

第三十三條 鑛業人ハ毎年一月及七月ニ前六ヶ月間ニ採取シタル鑛物ノ量數其ノ販賣高販賣代價及行業日數工數ヲ所轄鑛山監督署ニ届出ヅベシ。

第三十四條 鑛業人ハ鑛業製產物ノ量數帳及賣上帳ヲ調製シ、量數帳ニハ日々採製シタル製產物ノ量數ヲ、賣上帳ニハ其ノ製產物ノ販賣代價販賣ノ月日及買受人ノ姓名ヲ記載スベシ。

第三十五條 試掘人及鑛業人其ノ試掘又ハ鑛業ヲ爲スニ當リ他人ニ損害ヲ蒙ラシメタルトキハ賠償ノ責ニ任ズベシ。

第三章 鑛 區

第三十六條 鑛區ノ境界ハ直線ヲ以テ之ヲ定メ地表境界線ノ直下ヲ限リトシ其ノ面積ハ一鑛區五十萬坪以下三千坪以上トス。

鑛區トハ鑛物ノ探掘ヲ爲ス土地ノ區域ヲ謂フ。

第三十七條 宮城離宮皇陸海軍所轄城堡及火藥庫ノ周圍三百間以内ノ場所ハ鑛區内ニ加フルコト

ヲ得ズ。

第三十八條 鑛業人鑛床ノ狀況ニ因リ鑛區ノ境界若クハ位置ニ付訂正ヲ要スルトキハ、其ノ願書ニ理由書及訂正鑛區圖ヲ添へ農商務大臣宛ニテ所轄鑛山監督署ニ差出スベシ。鑛山監督署長ハ前項ノ願書ヲ受理シタルトキハ之ヲ農商務省鑛山局長ニ差出スベシ。農商務省鑛山局長ハ其ノ理由書及訂正鑛區圖ヲ審査シ相當ノ理由アリト認メタルトキハ、農商務大臣ノ認可ヲ經更ニ鑛業券ヲ下附スベシ。

第四章 土地 使用

第三十九條 試掘又ハ探掘ヲ出願スル爲メ他人ノ土地ヲ測量スルコトヲ必要トシ其請求ヲ爲シタル者アルトキハ、其ノ土地ノ所有者又ハ使用者ハ之ヲ拒ムコトヲ得ズ。若シ測量ノ爲メ損害ヲ生ジタルトキハ、其ノ測量ヲ請求シタル者ニ於テ之ヲ賠償スベシ。

第四十條 試掘ノ爲メニ他人ノ土地ヲ使用スルコトヲ必要トシ、試掘人其ノ貸渡ヲ請求シタルトキハ、其ノ土地ノ所有者又ハ使用者ハ之ヲ拒ムコトヲ得ズ。

第四十一條 左ノ場合ニ於テ鑛業上他人ノ土地ヲ使用スルコトヲ必要トシ、鑛業人其ノ貸渡ヲ請求シタルトキハ其ノ土地ノ所有者又ハ使用者ハ之ヲ拒ムコトヲ得ズ。

- 一、坑口ヲ開穿スル爲メ
- 一、鑛物及土石ノ堆積場ヲ設置スル爲メ
- 一、坑道道路鐵道運河溝渠及溜池ヲ開設スル爲メ
- 一、鑛業上必要ノ建物ヲ建設スル爲メ
- 一、界標ヲ建設スル爲メ

第四十二條 鑛業人其ノ所屬鑛區内ニ於テ採取シタル鑛物ヲ製煉スルガ爲メ、其ノ鑛區内ノ土地又ハ之ニ接續スル土地ヲ使用スルコトヲ必要トシ其ノ貸渡ヲ請求シタルトキハ、其ノ土地ノ所有者又ハ使用者ハ之ヲ拒ムコトヲ得ズ。

第四十三條 左ノ場合ニ於テハ土地所有者又ハ使用者ハ土地貸渡ノ請求ヲ拒ムコトヲ得。

- 一、貸渡請求ノ土地第十八條ニ記載スル場所ニ係ルトキ
- 一、借受人ニ於テ第四十四條ノ保證金ヲ差出サルトキ

第四十四條 土地借受人ハ貸渡ヲ受ケタル土地ニ就キ其ノ貸渡人ニ對シ相當ノ地料ヲ仕拂フベシ。前項ノ借地料ヲ仕拂ハシムル爲メニ土地貸渡人ハ其ノ借受人ヲシテ豫メ貸渡當時ノ地價ノ金額以下ノ金額ヲ保證金トシテ差出サシムルコトヲ得。

借受人土地ノ使用ヲ終リ、其ノ使用中ノ借地料ヲ完納シタルトキハ、貸渡人ハ土地受取ト同時ニ

保證金ヲ返還スベシ。

第四十五條 土地借受人第四十條第四十一條及第四十二條ニ依リ貸渡ヲ受ケタル土地ノ使用ヲ終リタルトキハ、其ノ土地ヲ原形ニ復シ貸渡人ニ返還スベシ。若シ原形ニ復シ難キトキハ借受人ニ於テ其ノ損害ヲ賠償スベシ。

第四十六條 土地借受人第四十四條ノ借地料ノ仕拂ヲ延滞シタルトキハ貸渡人ハ其ノ延滞借地料ニ相當スル金額ヲ保證金中ヨリ差引又ハ其ノ土地ヲ取戻スコトヲ得。

前項ノ場合ニ於テ其ノ土地ヲ取戻スニ當リ地上ニ建物等アルトキハ二週間以上ノ期限ヲ定メテ舊借受人ニ其ノ取除ヲ請求スベシ。

舊借受人其ノ期限内ニ取除ヲナサルトキハ其ノ建物等ハ貸渡人ノ所有ニ歸ス。

第四十七條 鑛業人ノ請求ニ依リ土地ヲ分裂シテ貸渡シタルガ爲メ殘餘土地ノ利用ヲ害シタルトキハ、貸渡人ハ鑛業人ニ對シ其ノ殘餘地ノ買取ヲ請求スルコトヲ得、此ノ場合ニ於テ鑛業人ハ之ヲ拒ムコトヲ得ズ。

第四十八條 鑛業人ニ於テ第四十條第四十一條又ハ第四十二條ニ依リ貸渡ヲ受ケタル土地ヲ滿三ヶ年以上使用スルノ見込アルカ、若クハ滿三ヶ年經過シ尙ホ其ノ使用ヲ繼續セントスルトキハ、土地貸渡人ハ鑛業人ヲシテ其ノ土地ヲ買取ラシムルコトヲ得、此ノ場合ニ於テ鑛業人ハ其ノ買取ヲ

拒ムコトヲ得ズ。

第四十九條 土地所有者又ハ使用者ニ於テ鑛業ノ爲メ危害ヲ生ズベキ旨ノ通知ヲ受ケタル後建設シタル造營物ニ就テハ其ノ鑛業ノ爲メ損害ヲ蒙ルコトアルモ鑛業人ニ對シテ其ノ損害ノ賠償ヲ請求スルコトヲ得ズ。

第五十條 第四十四條ノ借地料若クハ保證金第四十五條第四十七條及第四十八條ノ賠償金若クハ賣買代金ノ計算ニ就テハ鑛業ノ爲メニ生ズベキ地價ノ増加額ハ之ヲ算入スルコトヲ得ズ。

第五十一條 土地所有者又ハ使用者ト試掘人又ハ鑛業人トノ間ニ於テ土地測量貸渡借地料保證金損害賠償金若クハ土地賣買代金ニ就テ協議調ハザルトキハ、所轄鑛山監督署ニ其ノ判定ヲ請求スルコトヲ得。

鑛山監督署ノ判定ニ不服アルトキハ土地測量又ハ貸渡ニ就テハ農商務大臣ニ其ノ裁定ヲ請求シ、借地料保證金損害賠償金若クハ土地賣買代金ニ就テハ控訴院ニ上訴スルコトヲ得。

前項ノ場合ニ於テハ農商務大臣ノ裁定ニ對シテハ他ニ上訴スルコトヲ得ズ。

第五十二條 第五十一條ニ係ル鑛山監督署ノ判定及農商務大臣ノ裁定請求費用ハ民事訟訴入費ノ例ニ依リ負擔スベキモノトス。

第五十三條 第五十一條ノ場合ニ於テ農商務大臣ニ裁定ヲ請求シ、又ハ控訴院ニ上訴スルコトアル

モ、鑛業人ニ於テ鑛山監督署長ノ判定シタル借地料保證金損害賠償金若クハ賣買代金ヲ土地所有者又ハ使用者ニ渡スカ、或ハ土地所有者又ハ使用者ニ於テ之ヲ受ケザルトキハ、試掘人又ハ鑛業人ニ於テ其ノ金額ヲ所轄鑛山監督署ニ差出シ土地ヲ使用スルコトヲ得。

第五章 鑛業警察

第五十四條 鑛業ニ關スル警察事務ニシテ左ニ掲グルモノハ農商務大臣之ヲ監理シ鑛山監督署之行フ。

一、坑内及鑛業ニ關スル建築物ノ保安

一、鑛夫ノ生命及衛生上ノ保護

一、地表ノ安全及公益上ノ保護

第五十五條 鑛業警察事務ニ就テハ鑛山監督署長ハ地方警察署長ト共ニ公力ヲ用ユルコトヲ得。

第五十六條 鑛業上ニ危険ノ虞アリ、又ハ公益ヲ害スト認メタルコトアルトキハ、所轄鑛山監督署長ハ農商務大臣ノ認可ヲ經テ鑛業ヲ停止シ若クハ停止セズシテ鑛業人ニ其ノ豫防ヲ命ズベシ。其ノ危険ニシテ猶豫シ難キトキハ鑛山監督署長ハ鑛業ヲ停止シ又ハ停止セズシテ直ニ其ノ豫防ヲ命ズルコトヲ得。此ノ場合ニ於テハ其ノ事由ヲ農商務大臣ニ具申スベシ。

第五十七條 第五十六條第二項の場合ニ於テ鑛業人直ニ其ノ豫防ニ着手セザルトキハ、所轄鑛山監督署長ハ鑛業人ノ使用スル吏員及鑛夫ヲ指揮シ其ノ豫防ヲ實施スベシ。
此ノ場合ニ於テ鑛業人ハ其ノ使用スル吏員及鑛夫ヲ豫防ノ用ニ供シ且一切ノ費用ヲ負擔スルノ義務アルモノトス。

第五十八條 第五十六條ニ據リ鑛業ヲ停止シタル場合ニ於テ危險ノ豫防ヲ完成シタルトキハ、鑛山監督署長ハ直ニ農商務大臣ノ認可ヲ經鑛業ノ停止ヲ解クベシ。

第五十九條 農商務大臣ニ於テ此ノ條例ニ據リ探掘ノ許可ヲ取消シタルトキ、又ハ鑛業人自カラ廢業シタルトキハ、所轄鑛山監督署長ハ二週間以上ノ期限ヲ定メ、鑛業ノ爲メ建設シタル家屋及其ノ他ノ造營物ヲ除去セシムベシ。其ノ告知期限内ニ除去セザルトキハ所轄鑛山監督署ニ於テ之ヲ除去スベシ。此ノ場合ニ於テ鑛山監督署ハ損害賠償ノ責ニ任ゼザルモノトス。

前項ノ場合ニ於テ所轄鑛山監督署長ニ於テ坑内保安ノ爲メ必要ト認ムル坑内及坑口ノ構造物ハ、鑛物ニ附屬スルモノトナシ、之ヲ除去スルコトヲ得ザルモノトス。

第六十條 農商務大臣ハ此ノ條例ノ範圍内ニ於テ省令ヲ以テ別ニ鑛業警察規則ヲ定ムルコトヲ得。

第六章 鑛 夫

第六十一條 鑛業人ハ其ノ使役スル鑛夫ノ使役規則ヲ定メ所轄鑛山監督署ノ認可ヲ受クベシ。

鑛夫トハ鑛物ノ探掘及之ニ附屬スル業務ニ從事スル男女ノ役工ヲ謂フ。

第六十二條 第六十一條ノ使役規則ニ於テハ鑛業人ハ鑛夫ニ對シ雇役契約ヲ施行スベキコトヲ規定スルコトヲ得。

第六十三條 鑛業人ト鑛夫トノ間ニ特別ノ約定ナキトキハ、双方トモ十四日以前ニ通知スルトキハ雇役ノ解約ヲナスコトヲ得。

第六十四條 左ノ場合ニ於テハ鑛業人ハ何時タリトモ鑛夫ヲ解雇スルコトヲ得。

- 一、輕罪已上ノ刑ニ處セラレタルカ又ハ不行狀ノ所爲アルカ若クハ命令ヲ遵守セザルトキ
- 一、鑛業人又ハ其ノ使用スル吏員ニ對シ不敬ノ所爲アリタルトキ
- 一、身體虛弱ニシテ業務ニ堪ヘザルカ又ハ忌避スベキ疾病ニ罹リタルトキ
- 一、鑛業ヲ禁止セラレタルトキ

第六十五條 左ノ場合ニ於テハ鑛夫ハ何時タリトモ其ノ雇役ヲ罷ムルコトヲ得。

- 一、身體虛弱ニシテ業務ニ堪ヘザルトキ
- 一、鑛業人又ハ其ノ使用スル吏員ニ於テ虐待シタルトキ
- 一、約定ノ賃錢又ハ其ノ他ノ報酬ヲ理由ナクシテ給與セザルトキ

第六十六條 鑛業人又ハ其ノ代理人ハ解雇スル鑛夫ノ請求ニ依リ從來ノ業務雇年限本人ノ技能品行等ヲ記載シタル證明書ヲ與フベシ。

其ノ證明書中鑛夫ニ於テ不當ト認ムル事項アルトキハ鑛山監督署長ニ調査ヲ出願スルコトヲ得、此ノ場合ニ於テハ鑛山監督署長ハ其ノ事實ヲ調査シ、若シ證明書ニ不當ノ事項アルトキハ其ノ旨ヲ證明書ニ裏書スベシ。

第六十七條 鑛業人ニ於テ既ニ鑛山ニ從事シタル鑛夫ヲ雇入ルルトキハ舊傭主ノ證明書ヲ所持スルモノニアラザレバ其ノ雇入レヲ爲スコトヲ得ズ。

第六十八條 鑛業人ハ鑛夫ノ賃錢ヲ通貨ニテ支拂フベシ。鑛夫ノ承諾アルニアラザレバ其ノ他ノモノヲ以テ支拂ヲ爲スコトヲ得ズ。

第六十九條 鑛業人ハ鑛山ニ就役スル鑛夫名簿ヲ備へ、姓名原籍職業傭入及解傭ノ年月日平常ノ行狀及最終ノ證明書ノ日附ヲ記入スベシ。

第七十條 農商務大臣ハ左ニ記載スル制限内ニ於テ省令ヲ以テ鑛夫工役規則ヲ定ムルコトヲ得。

- 一、一日十二時間以上ノ就業時間ヲ制限スルコト
- 一、女工工役ノ種類ヲ制限スルコト
- 一、十四歳以下ノ男女役工ノ就業時間及工役ノ種類ヲ制限スルコト

第七十一條 鑛業人ハ左ノ場合ニ於テ其ノ雇入鑛夫ヲ救恤スベシ。其ノ救恤規則ハ所轄鑛山監督署ノ認可ヲ受クベシ。

- 一、鑛夫自己ノ過失ニ非ズシテ就業中負傷シタルモノニ診察及療養費ヲ補給スルコト
- 一、鑛夫前項ノ場合ニ於テ療養休業中相當ノ日當ヲ支給スルコト
- 一、前項ノ負傷ニ依リ鑛夫ノ死亡シタルトキ其埋葬料ヲ補給スルコト
- 一、鑛夫中自己ノ過失ニアラズシテ就業中ニ負傷シ廢疾トナリタル者ニ定期間補助金ヲ支給スルコト

第七章 鑛業稅鑛區稅及手數料

第七十二條 鑛業人ハ鑛業稅トシテ鑛業生産物ノ價格百分ノ一、鑛區稅トシテ鑛區一千坪毎ニ一ケ年金三十錢ヲ納ムベシ。一千坪未滿亦同ジ。

石炭ヲ採掘スル者ニハ前項鑛業稅ノ半額ヲ課シ、鐵鑛ヲ採掘スル者ニハ鑛業稅ヲ課セズ。

第七十三條 第七十二條ニ係ル鑛業生産物ノ價格ハ主要ナル市場ノ平均相場ヲ標準トシ、三年毎ニ農商務大臣ノ告示スル所ニ據リ市場ノ相場ナキモノハ其ノ販賣代價ニ據ル。

第七十四條 鑛業稅ハ前年分ヲ其ノ翌年一月三十日及廢業ノ年ニ係ルモノハ廢業ノ日ヨリ六十日以

内ニ之ヲ納ムベシ。

鑛區稅ハ一ケ年分ヲ其ノ前年十二月十五日、初年ニ係ルモノハ月割ヲ以テ採掘出願許可ノ日ヨリ六十日以内ニ之ヲ納ムベシ。其ノ廢業ノ年ニ係ルモノハ之ヲ返付セズ。

第七十五條 鑛業人納稅期限内ニ鑛業稅及鑛區稅ヲ納メザルトキハ、農商務大臣ハ採掘ノ許可ヲ取消シ、其ノ怠納ニ係ル稅額ハ之ヲ追徵スベシ。

第七十六條 試掘ヲ出願スル者ハ、一願書毎ニ手數料トシテ金三圓、採掘ヲ出願スル者ハ一願書毎ニ手數料トシテ金二圓ヲ納ムベシ。

第七十七條 第十五條ニ依リ契約ノ登録ヲ請求スル者ハ一事件毎ニ手數料トシテ金拾圓ヲ納ムベシ。

第七十八條 鑛業券ノ再下附ヲ請求スル者ハ手數料トシテ金三圓ヲ納ムベシ。

第七十九條 手數料ハ登記印紙ヲ以テ之ヲ納ムベシ。

第八章 罰 則

第八十條 許可ヲ得ズシテ採掘ヲ爲シタル者又ハ詐欺ノ所爲ヲ以テ採掘ノ許可ヲ受ケタル者ハ、一月以上一年以下ノ重禁錮又ハ三十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス。

第十六條第十八條及第二十一條ヲ犯シタル者亦同ジ。

第八十一條 認可ヲ受ケズシテ試掘ヲ爲シタル者、又ハ認可ノ年限ヲ過ギ尙ホ試掘ヲ爲シタル者、又ハ詐欺ノ所爲ヲ以テ試掘ノ認可ヲ受ケタル者ハ、十五日以上六ヶ月以下ノ重禁錮又ハ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス。

第八十二條 第二十五條第一項ニ依リ坑内實測圖ヲ調製追補セザル者、又ハ詐欺ノ追補ヲ爲シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ拾圓以下ノ罰金ヲ附加ス。

第八十三條 第六條ヲ犯シタル者ハ其ノ賣得金三倍ニ相當スル罰金ニ處ス。

第八十四條 第七條ノ金額ヲ期限内ニ納付セザル者ハ其ノ納付スベキ金額三倍ノ罰金ニ處シ、其ノ販賣代價ヲ隱匿シタル者ハ其ノ隱匿シタル金額三倍ニ相當スル罰金ニ處ス。

第八十五條 第三十三條ニ依リ届出ヅベキ事項ヲ詐テ通稅シタル者ハ其通稅金額三倍ニ相當スル罰金ニ處ス。

第八十六條 第三十四條ノ帳簿ヲ調製セズ、若クハ帳簿ノ登記ヲ詐リタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス。

第八十七條 第六十一條第六十八條及第七十一條ヲ犯シタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス。

第八十八條 第三十二條第六十六條第一項第六十七條及第六十九條ヲ犯シタル者ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス。

第八十九條 第八十條又ハ第八十一條ノ罪ヲ犯シ採取シタル鑛物竝ニ犯罪ノ用ニ供シタル物品ハ之ヲ沒收ス。若シ其ノ採取シタル鑛物ヲ賣與讓與シ又ハ自用シタル者ハ其ノ納稅額ノ三倍ニ相當スル罰金ニ處シ尙ホ其ノ價格ニ相當スル代金ヲ追徴スベシ。

第九十條 第八十三條第八十四條及第八十五條ノ場合ニ於テ自首シタル者ハ其ノ納付スベキ金額ヲ追徴シ其ノ罪ヲ問ハズ。

第九十一條 此ノ條例ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ減輕再犯加重及數罪俱發ノ例ヲ用ヒズ。

第九章 附 則

第九十二條 此ノ條例實施以前ニ許可ヲ得タル試掘人又ハ借區人ハ其ノ許可ヲ得タル年限中試掘又ハ鑛業ヲ爲スコトヲ得。

第九十三條 此ノ條例實施以前ニ借區ノ許可ヲ得借區年限滿期後尙ホ引續キ鑛業ヲ爲サントスル者ハ借區滿期以前ニ此條例ニ依リ出願スベシ。

第九十四條 此ノ條例實施以前ニ借區ノ許可ヲ得タルモノ其ノ借區坪數第三十六條ノ制限以上ニ涉ルモノハ從來ノ鑛區圖ニ基キ鑛區ヲ定ムルコトヲ得。

但從來鑛區不適當ナルトキハ農商務大臣ハ之ヲ訂正セシムルコトアルベシ。

第九十五條 此ノ條例ノ施行ニ關スル細則ハ農商務大臣之ヲ定ム。

第九十六條 此ノ條例ハ明治廿三年三月一日ヨリ施行ス。明治六年太政官第二百五十九號布告日本坑法及鑛業ニ關スル一切ノ布告達ハ同日限り之ヲ廢止ス。

坑法意見書

カール、ルードルフ

拜啓陳レバ小官ノ過般北海道其他東北諸縣巡廻致候際坑法及坑山管理法ニ就キ往々意見ヲ陳述シタルコトアリ。右ハ濱崎氏ノ筆記ニ登載有之候得共、尙又爰ニ卑見ヲ開陳シテ以テ閣下ノ瀏覽ニ供セントス。

普國ノ面積ハ三千四百八十二萬五千三百三十「ヘクタール」ニシテ其人口二千七百二十八萬零九百二十三人アリ。而シテ千八百七十五年ニ於テハ營業ノ坑山無慮二萬二千五十七ヶ所ニシテ、鑛夫ノ數ハ二十三萬五千五百十一人アリ。官ノ統計表ニ據テ之ヲ見ルトキハ、千八百八十二年普國ニ於テ產出スル所ノ坑物ハ其價三萬四千七百六十八萬八千「マルク」ニシテ、之ヲ日本ノ通貨ニ引直セバ凡八千六百九十二萬二千圓ニ當ル。又山鹽ヨリ製シタル食鹽ハ千八百八十二年ニ於テハ其價二千二百五十八萬八千「マルク」ニシテ、日本ノ五十六萬四千七百圓トナル。千八百八十二年ノ溶鑛產ヲ計算スレバ總價額二萬六千八百零一萬三千「マルク」即チ凡ソ六千七百萬三千二百五十圓ナリ。普

國所有ノ鑛山溶鑛及山鹽ノ價額ヲ合計スレバ凡ソ六萬三千八百萬「マルク」即チ凡ソ一萬五千九百五十萬圓ナリ。

抑モ普國ハ甚ダ坑物ニ富メル國ニアラズト雖モ年々坑山溶鑛及山鹽ヨリ產出スル價額ハ普國人民ノ財產及總歲入上ニ於テハ最モ重要ナル地位ニ立テリ。

日本國ノ面積ハ三千八百二十四萬三千六百四十「ヘクタール」ニシテ、普國ヨリ廣キコト三百五十萬「ヘクタール」トス。而テ人口ハ三千七百萬ナルヲ以テ、之ヲ普國ニ比スレバ更ニ九十萬乃至百萬ノ多ヲ加フ。グリヒース」ノ計算ニ據レバ千八百七十四年ノ日本全國營業坑山ノ現數ハ二千四百九十三ニシテ、其坑物ノ價額ハ千四百七十九萬零百「マルク」即チ三百六十九萬二千五百二十七圓ナリ。又「ネットウ」ノ計算ニ據レバ千八百七十七年ニ於テ收穫スル所ノ全國坑山及溶鑛產ノ價額ハ一千六百七十萬「マルク」即チ凡ソ四百拾七萬五千零九圓ナリ。

北亞米利加ノ總領事「フオン、ブーレン」ノ計算ニ據レバ千八百八十年ニ於テ日本全國ノ鑛山及溶鑛產ノ價額ハ二千萬「マルク」即チ五百萬圓ナリ。

日本國ヲ以テ普國ニ比スレバ其土地ハ廣大ニシテ人口モ亦多數ナリ。然ルニ前顯ニ依テ例スレバ年々坑山及溶鑛ヨリ得ル所ノ利益ハ普國ヨリ却テ僅少ナルガ如シ。

抑々一國人民ノ幸福總歲入開進及安寧ハ人民ノ坑業農業及山林事業漁業銃獵及工業等ニ從事スル

ニ由テ年々産出スル所ノ總價額ニ最モ關係スルモノナルヲ以テ、人民ニ餘裕アレバ租稅其他ノ公費ヲ納ムルノ資力モ亦彼ニ得ルナラン、由之觀之國家ノ幸福モ亦人民ノ餘裕ニ關スルモノト謂ハザルヲ得ズ。又一般ノ幸福ハ學問及發育上ノ進歩ニ於テモ亦缺クベカラザルノ要件タリ。夫レ國民ノ年々收穫スル所ノ價額ニシテ若シ減少スルトキハ、國民ノ不幸推シテ知ルベキナリ。然ラバ則農産ハ殖産中ノ一部分タルニ過ギズト雖モ、其不作却チ饑饉ハ全國ノ人民ヲシテ凍餓ノ苦境ニ沈淪セシムルノ原因タルコト亦知ルベキノミ。

之ニ反シテ年々收穫スル所ノ價額増殖スルトキハ國民ノ幸福總歲入モ亦隨テ増加シ諸稅及公費ヲ納ルノ資力ヲ得ルニ至ルベシ。加之人民ノ安寧ハ一般ノ開化ヲ誘導スル上ニ於テモ亦利益アリ。

此ノ故ニ各國家ハ其人民ヲシテ坑業農業及山林事業漁業銃獵及工業等ノ職ニ就カシメテ以テ出產ノ價格ヲ増殖セザルベカラズ。而テ營業上譬ヘバ坑業其他ノ殖産上ニ於テ妨害アルトキハ假令其技葉ニ屬スルモノト雖モ、必ズ之ヲ除却シテ以テ之ヲ蕃殖スルノ方法ヲ計畫セザルベカラズ。而テ其方法タル經濟的ノ見識及智識ノ進歩機械器具及組織ノ改良競爭忍耐及熱心ノ發達ニ因ルベキノ蓋シ其多キニ居ル。

小官ハ過般巡廻セシ際僅ニ日本坑業ノ現狀ヲ目撃スルヲ得、未ダ詳ニ之ヲ探知スルニ由ナシト雖モ、一目シテ其不完全ナルヲ察觀セリ。若シ此ノ坑山ヲシテ完全ナラシメバ其得ル所ノ利益モ蓋亦鮮少ナラザルベシ。夫レ小官ハ一ノ行政官ニシテ坑山ノ技術家ニアラザレバ機械器具等總テ技術上ノモノニ論及セザルハ勿論ナリ。而テ其坑業ヲ不完全ナリト稱スルハ唯其行政及經濟上一般ノ點ヨリ論及シタルニ外ナラズ。請フ左ニ其理由ヲ陳述セン。

第一 普國及獨國ノ坑法ニ依レバ坑山ノ發見者ハ地主ニアラザルモ之ヲ所有スルノ權アリトス。是近時歐洲諸國及米國ニ於テ一般ニ施行セラル、所ノ原則ナリ。故ニ發見者ハ假令其地主ニアラズト雖モ若シ其必要ナル坑物ヲ試掘セント欲セバ必ズ之ヲ實施スルノ權アルベク、又試掘者ニ於テ必要ナル坑物ヲ發見シ坑山ノ所有ヲ願出デタルトキハ地主ハ之ヲ貸附セザルベカラザルナリ。日本現行ノ坑法モ亦獨逸坑法ニ準據シタルモノノ如シト雖モ、前陳ノ緊要ナル原則ニ至テハ之ヲ揭ルコトナシ。日本坑法ニ依レバ築石土砂粘土其他建築耕作ノ用ニ供スベキ諸物品ハ都テ地主ノ所有ニ屬スト雖モ坑物ハ却テ日本政府ノ所有タリ。坑法第十及第十一款ニ依レバ工部卿ハ十五年間ノ定期ヲ以テ民間ノ者ニ借區ヲ附與スルノ權ヲ有スルノ規定アリ。而テ試掘又ハ他ノ方法ヲ以テ必要ナル坑物ヲ發見シタル者ニ十五年間之ヲ借受ルノ權利及特別ノ許可ヲ與フベキ明文ハ日本坑法ノ之ヲ掲載セザル所ナリ。由之觀之發見シタル坑山ヲ以テ或ハ政府ノ所有トナシ、或ハ十五年間ノ定期ヲ以テ發見者又ハ第三ノ請求者ニ貸與セントスルハ獨リ工部卿ノ權内ニ屬シタリ。果シテ之レ宜ヲ得タルモノト謂フベキカ、若シ夫レ坑業ヲ獎勵シ、又之ヲ盛大ニセント欲セバ坑物ヲ

發見シタル者ニ其探掘ノ權ヲ附與スルコト實ニ必要タリ。而テ政府ニ於テハ必ズ發見者ヲシテ探掘セシムルノ法律ヲ設ケザルベカラズ。何トナレバ試掘ノ事業タル常ニ多額ノ費用ヲ要スルモノナレバナリ。

普國ニ於テハ坑物殊ニ炭坑穿索ノ爲メニハ直鉛ヲ下シ深ク坑孔ヲ穿ツ、其費用十萬圓ヲ下ダラズ。此ノ如キ巨額ノ入費ト多分ノ勞力トヲ費ヤスヲモ厭ハズシテ坑山ヲ發見セント欲スル者ハ、當ニ坑物ヲ永遠ニ探掘シテ以テ入費ヲ補フノミナラズ、其危險ヲ冒シ勞力ヲ盡シタルニ付テ相當ノ利益ヲ得ントスルノ確乎タル見込アレバナリ。顧フニ日本ニ於テモ亦政府ノ寛大ナルヲ信用シテ試掘業ヲ起サントスル者ハ蓋シ乏シカラザルベシ、探掘ヲ試ミ鑛物ヲ發見シタル者、永ク之ヲ探掘シ充分利益ヲ占得スルノ保護ヲ法律上ニ於テ受ルトキハ、開坑者ノ數ハ勿論勞力及資本等ニ於テモ大ニ融通ヲ得テ新坑山ノ數ハ爲ニ増加スベシ。日本國ハ古來最モ鑛物穿索ノ事業ニ注意シタリ。是レ今日猶存立スル所ノ坑山ノ數ヲ以テスルモ之ヲ證スルニ足ル。然リト雖モ之ヲ普國ノ坑業ニ比スレバ猶ホ未ダ及バザル所多シ。普國ニ於テハ久シク鑛山學及補助學殊ニ地質學ノ開ケタルヲ以テ、試掘上既ニ此學術竝ニ良製ノ機械器具等ヲ適用シテ坑業上著大ノ進歩ヲ致シタリ。今日ニ至テモ巨額ノ資本ヲ投ジテ坑業ニ從事スルガ故ニ、尙新鑛山ノ發見アリテ坑業ノ範圍ハ益々擴充セル狀勢アリ。今ヨリ四十年前千八百三十五年ヨリ同四十四年ニ至ルノ際、普國ニ於テ歲々收入

スル所ノ鑛物價額ハ溶鑛山鹽等ヲ除キ、凡ソ日本ニ於テ今日產出スル所ノ價額ニ均シク二千一萬萬「マルク」アリ、是レヨリ二十年ヲ經ルノ後即チ千八百六十五年ニ至テ坑產ノ價額ハ既ニ一萬四千四百萬「マルク」ニ達セリ。普國ノ範圍タル當時ニアリテハ甚ダ狹小ニシテ「ヘセン」「ナサウ」「ホルスタイン」ノ三ヶ國モ未ダ合併セザリシトキナリ。千八百八十二年ニ於テ普國坑產ノ價額ハ既ニ陳述スルガ如ク三萬四千七百萬「マルク」ヲ超過スルニ至レリ。然レドモ溶鑛竝ニ山鹽ノ價格ハ右ノ計算ニハ加入セズ、每歲ノ收入高ノ如斯増殖セシハ當ニ新坑山ノ發見及開坑ニ基因スルノミナラズ、猶種々ノ原因アリテ之ヲ増殖セシメタリ。

未發開坑物ノ發見ヲ勸獎セントスルニハ最良ノ方法アリ、他ナシ試驗堀セント欲スル者ニ法律上其借區ヲ永ク附與スルニアリ。英國ノ坑法ニ依レバ地主ニ限り鑛物ヲ探掘スルノ權ヲ與フ、英國固ヨリ盡シタルニアラズト雖モ、日本坑法ノ組織ヲ以テ之ニ比スレバ亦其勝レル所アリト謂フベシ。試ミニ看ヨ英國ニ於テハ地下ノ鑛物ヲ發見センコトヲ勉ルハ地主一般ノ嗜好ナルニアラズヤ。然リ而テ日本ニ於テハ之ニ反シ地下ノ鑛物ヲ發見セントスルハ唯政府ノミ。特ニ其嗜好アリト雖モ、元來政府ノミニ於テ坑業ヲ營マント欲スルハ其當ヲ得タルモノト謂フベカラズ。英國ノ坑法如斯モ之ヲ獨國ノ組織ニ比スレバ未ダ良法ナリト云フヲ得ザルナリ。彼北米合衆國ノ如キ英國慣習法ノ行ハル、國ニ於テスラ、獨國ノ組織ヲ採用セリ。又歐洲諸國ノ過半及南亞米利加洲ニ於テ

モ亦之ヲ採用セリ。各國多ク獨法ヲ採用スル原因ヲ尋ヌルニ、蓋シ其ノ試掘ヲ作サント欲スル者ハ地主輩ヨリモ他ノ人民中ニ其數却テ多ク、而テ又人民試掘ノ自由ヲ得ルトキハ政府及地主ニアリテモ之ガ爲ニ地下ノ鑛物ヲ發見セント競争心ヲ發スルナラン。依之觀之獨國ノ坑法ニ依レバ鑛物ノ發見上ニ於テ最大必要ナル競争心ヲ一般ニ喚起スルコト知ル可キナリ。英國ニテ右ノ如キ坑法ヲ實行スルニモ拘ハラズ、其未ダ損失ヲ來タサルハ他ニ其原因アリ、英國ノ鑛山ハ大概資力ト智力トニ富メル大地主ノ所有ニ歸スルヲ以テ右ノ地主ハ或ハ之ヲ自分ニ試掘シ、或ハ條約ヲ以テ試掘セント欲スル他人ニ讓與シ、必要ナル坑物發見ノ上ハ相當ノ利益ヲ占領スルコトアルニ由ル。恐ラクハ之ヲ以テ直ニ他ノ模範トナシ難シ。

獨リ獨法ニ至テハ坑物ノ發見上及開坑者ニ取テ甚ダ有益ナルガ故ニ小官ハ獨法ニ準ジテ日本坑法ヲ改正セラレンコトヲ希望ス。

第二 十五年間ノ期限ヲ立テ民間ノ起業者ニ鑛山ヲ貸附スル現行坑法ノ規定ハ日本鑛業ノ發達上ニ巨大ノ損害アリ、抑モ各人民及各國家ノ經濟的ノ利益ハ内地ニ在ル所ノ鑛物ヲ成ル可ク最少ノ費額ヲ以テ採取シ、成ルベク最大ノ利益ヲ得ントスルニアリ。

此ノ目的ヲ達セントスルニハ固ヨリ大ナル資本ナカルベカラズ。譬ヘバ必要ナル地面ノ償金、機械ノ設置坑内運輸ノ便利建築堅坑等ノ如キ總テ莫大ノ費額ヲ要ス。然レドモ若シ坑山ヲ永ク所有

スルヲ得ルトキハ自己及相續者ノ利益ヲ謀ルガ爲メニ必要ナル資本ヲ投ジテ其用ニ供シ、其資本缺乏ノ場合ニ於テハ或ハ負債ヲ起シ、或ハ他ノ資本家ト結合シテ以テ共ニ鑛業ヲ營マンコトヲ計畫スルナラン。是他ナシ數年間ヲ經過スルノ後ニ於テ鑛山ノ事業ニ供シタル資本ノ利子ニ至テハ固ヨリ其他之ニ由テ多分ノ利益ヲ取得スルノ目的アルヲ以テナリ。坑業者ニ於テ永ク鑛山ヲ所有シ得ルトキハ多分ノ利益ヲ占メント欲シ、爲ニ其工事即建築及構造等之ヲ堅固ニシ常ニ之ヲ修復シ又改良スルコト疑ナシ。然ルニ今日ノ如ク十五年間ニ限ルトキハ營業者ハ唯十五年丈ノ見込ヲ以テ坑業ニ從事スルニ依リ、建築其他諸工事ハ悉ク疎漏ニスルハ又勢ノ免レ難キ所ナリ。乍併若シ右十五年間ニ於テ十分ニ資本ノ利子竝ニ莫大ノ利益ヲ得ルノ目的アレバ、縱令多額ノ資本ヲ費ヤスモ必ず完全ナル改修ヲナス可キナレドモ、僅々十五年間位ニシテ十分ニ利益ヲ收ルハ古來實ニ稀ナル所ナリ。加之如何ナル鑛山ト雖モ開坑後數年間續々資本ヲ投入シタル其後ニ至リ、始テ從來ノ失費ヲ償ヒ及其利益ヲ得ルハ一般ナリ。又坑内ノ支柱其他構造上ノ良否如何ニ因リ、將來ノ結果即便否損益ヲ異ニスルハ亦見易キノ理ナリ。然ルニ十五年間ノ制限アルトキハ、所有者ハ此期限内ニ於テ成ルベク多ク利益ヲ得ント欲シ、右等ノ點ニ至テハ更ニ注意スルコトナキニ至ラン。既ニ此ノ如クナルトキハ十五ヶ年ノ期限ヲ以テ坑山ヲ附與スルノ方法ハ坑業者ヲシテ其期限ニ於テ採掘シ得ルダケノ量ヲ採收セシムルニ止リ、未發ノ鑛物ハ其儘地下ニ殘シ置クニ至ラン。

實ニ之レ無益ト謂ハザルヲ得ズ。之ニ反シ有益ノ鑛山ヲ永ク所有スル者ハ其鑛山ノ價ニ相當スル信用ヲ有スルガ爲メ、之ヲ抵當トシテ資本ヲ借入レ坑業上ノ需求ニ充ルヲ得ベシト雖モ、十五年間ノ所有者ニシテ如此ノ信用ヲ得ントスルハ甚ダ難シ。顧フニ日本ノ坑業、發起者中ニハ資本ノ缺乏ヨリシテ多額ノ費用ヲ要スルモノ即チ最良ノ機械等ヲ設置スル能ハザル者亦多カルベシ。此ノ如キ原因アルヲ以テ十五ヶ年ノ期限其他之ニ類似ノ制限ハ總テ廢棄シ、坑業者ニ永ク坑山ノ所有權ヲ附與スルノ規定ハ實ニ坑業上ノ要件タリ。故ニ小官ハ千八百六十五年六月二十四日附ヲ以テ布告セラレタル普國坑法第六十五條及其他ノ規定ヲ茲ニ日本坑法中ニ於テ採用セラレンコトヲ望ム、其要旨ヲ舉レバ左ノ如シ。

坑業ハ一般ノ利益ニ關スルヲ以テ、官ニ於テモ之ヲ獎勵ス。故ニ若シ坑山所有者ニ於テ其開坑事業ヲ拒ムトキハ其所有權ヲ剝奪スルヲ得ベシ。

第三 坑業ヲ營マントスル者ハ必ズ大ナル資本ヲ有セザルベカラズ。加之其事業タル開坑後ニ至リ豫算外ノ工事ヲ要シ營業上永ク補充費ヲ供セザルベカラザルコトアルガ故ニ、一個人ニシテ之ニ堪フベキ充分ナル資本ヲ有スル者ハ蓋シ稀ナリ。依テ右發起者ニシテ資本ヲ募集シ結社シテ共ニ坑業ヲ營マントスルハ其當ヲ得タルモノナリ。千八百六十五年六月二十四日附ヲ以テ布告セラレタル普國坑法ハ坑業ノ進歩ヲ圖ラント欲シ、其第九十四條ニ至ル各條ニ於テ坑山會社及社員ノ法

律上ノ關係ヲ規定セリ普國坑山ノ今日ノ如ク盛大ニ赴キシハ重ニ會社資力ノ一點ニ原因セリ。而テ日本鑛法ニハ鑛山會社ニ關スル條規ナシト雖モ、右會社規則ハ日本ノ鑛業上ニ執リ缺クベカラザルノ要件タリ。何ントナレバ日本ノ財産分配ノ現狀ハ之ヲ歐洲ノ財産ニ比スレバ大ニ其平均ヲ得タレバナリ。試ミニ看ヨ歐洲ニ於テハ富者ハ益々富ミ貧者ハ愈々貧ナルモ、日本ニ於テハ更ニ之ニ反シ一般ニ中等及中以下ノ財産多キニアラズヤ。此ノ故ニ坑業ノ用ニ供スベキ充分ノ資本ヲ有スル者ハ殊ニ僅少ナリトス。顧フニ若シ日本ノ坑業上ニ於テ必要ナル資本ヲ募集スルヲ得セシメントスルハ唯鑛山會社設立ノ一事アリ。故ニ小官ハ普國ノ鑛山會社規則ノ緊要ナル條規ヲ日本坑法中ニ採用アランコトヲ切望ス。

第四 日本鑛法中ニ掲ル試堀者及地主間ノ權限規則ハ甚ダ不完全ナルヲ以テ其改正アランコトヲ要ス。

第五 鑛山警察規則モ不完全ナルヲ以テ是レ亦新ニ規則ヲ設定セザル可ラズ。

第六 普國ニ於テハ採製シタル鑛物價額百分ノ二ヲ鑛物稅トシテ納メシム。而テ日本鑛法第三十一條ニ據レバ坑業者ハ借區稅ノ外ニ採製セシ金屬及諸鑛物毎ニ代價百分ノ三ヨリ百分ノ二十迄ヲ鑛物稅トシテ鑛山寮ニ納ム可シトセリ。夫レ斯ノ如キノ條規タル一般ニ鑛山起業ノ精神ヲ束縛シ、爲ニ其大ナル資本ヲ投セントスル者ヲ妨害ス。凡ソ多額ノ資本ヲ要スル事業ヲ起サント欲スル者

ハ其何ノ事業タルヲ問ハズ資本ノ利足及充分ナル利益ヲ成ルベク確收セントスル其常ナリ。然ルニ鑛物税ノ確定セズシテ鑛産價額百分ノ二十迄ヲ鑛物税トシテ納メシムルトキハ其ノ利益ノ收ムベカラザルハ固ヨリ當ニ其鑛山ニ投入シタル資本ノ利子ヲ得ザルノミナラズ、恐ラクハ年々損害ヲ醸出シ資本ノミヲ補足セザルベカラザル場合多カルベシ。此ノ事情ヲ眞ニ洞視シタルトキハ鑛法第三十一條ノ納税規則ハ一時之ヲ中止セザルヲ得ズ。又果シテ坑業ヲ勸勵セント欲セバ全ク之ヲ廢棄シ、或ハ適當ナル鑛物税ヲ賦課スルノ條規ヲ定ムベシ。然レドモ彼第三十一條ノ納税規則全廢ニ歸セズ、僅カニ中止セラル、ニ過ギザルトキハ坑業發起者ハ其中止シタル納税規則ノ再ビ實施セラレンコトヲ恐レ坑業ニ從事スルヲ以テ大ニ危ムニ至ラン。

第七 工業ハ概シテ大事業ニシテ坑業モ亦之ニ類ス、殊ニ坑業者ハ通例夥多ノ職工ヲ有スルニ依テ日本坑業ノ漸ク盛大ニ赴クニ從ヒ職工ニ關スル法律ノ需求ヲ現出スルニ至ラン。普國ニ於テハ職工組合ヲ設ケ、各職工ヲシテ幾分カノ積金ヲナサシメ、職工中間ニテ病ニ罹リ又ハ負傷シタル者等アル場合ニ於テ共ニ救濟セシムルノ方法アリ右ハ參考ノ爲メ茲ニ一言ス。

第八 今年ノ豫算表ニ依レバ普國官有鑛山ノ數ハ六十二アリ、之ヲ内別スレバ鑛山ノ數四十三、鑛鑛十ヶ所、山鹽坑九ナリ。而テ鑛産ノ價額ハ六千萬八千九百九十五「マルク」鑛鑛ノ價額ハ一千九百四十三萬八千九百二十「マルク」、山鹽ノ價額ハ五百七十三萬二千六百五十「マルク」ニシテ合

計八千五百萬乃至八千六百萬「マルク」即チ日本ノ二千五百五十萬圓ナリ。右ノ諸坑山ヨリ近年收穫スル所ノ純益ハ每歲平均千三百萬乃至千四百萬「マルク」即チ日本ノ三百五十萬圓ナリ。此ノ金額ハ每歲鑛鑛及山鹽ノ利益トシテ出納本局ヘ納ルモノナリ。今年ノ豫算ニ依レバ山鹽及鑛鑛ノ純益ハ千四百萬乃至千五百萬「マルク」ナリト、近年日本ニ於テ官有坑山即チ鑛山鑛鑛及山鹽ヨリ收入スル所ノ純益ハ其幾何ナリシヤ、又ハ每歲損害ヲ蒙リ補足費ヲ要セシヤ否、小官ハ此等ヲ探究スルヲ得ザリシ。尤千八百七十七年ノ頃ニ於テハ日本ノ鑛山ハ總テ損害ヲ蒙リシナラン。千八百七十九年出版ノ獨逸東洋協會ノ報告三百八十九枚目ニ於テ、「ネトウ」氏ノ日本ニ於テ官有ノ坑山ヨリ每歲收入スル所ノ平均價額ヲ計算シタル表アリ、右ニ依レバ千八百七十七年代ニ於テハ每歲ノ收入高ハ平均六十三萬二千二百八圓ニシテ、歲出高ノ平均ハ七十五萬千五百八圓アリ、由之觀之、每歲損失シタル所ノ高ハ平均十二萬九千三百圓トナル、又「ネトウ」氏ノ計算ニ依レバ千八百七十七年迄ニ每歲私有坑山ニ於テ得タル所ノ純益ハ平均百二十四萬七圓ニシテ總收入額ハ毎年二百六十九萬二千五百九十圓ナリ。而テ總支出高ハ百四十五萬二千八百五十二圓ナリ。小官此書ノ初メニ於テ人民ノ幸福ハ重ニ山林、坑、漁、農工業等ニ因テ年々產生スル所ノ價額ニ關スルモノタルコトヲ陳述シタリト雖モ、獨リ產生價額ヲ以テ足レリトスルヲ得ズ。殖産ノ道ニ依テ人民ノ幸福ヲ増進セント欲セバ產生價額ヨリモ產生費ノ減少スルヲ要ス。產生價額ト產生費トノ差ヲ

比較シ、大ニ殖産ノ利益ヲ増ストキハ人民ノ幸福モ亦隨テ其歩ヲ進ム可シ。然レドモ之ニ反シ産生價額ノ産生費ヨリモ少ナキトキハ、殖産ハ人民ノ爲メ損失アリテ利益ナシ。故ニ若シ營業及殖産費ハ之ヲ減少スルヲ得ズ。去リテ殖産ノ利益ハ別ニ増加スルノ目的ナキトキハ廢業スルノ外他ニ其方ナカルベシ然リト雖モ、開廢ニ付テハ何事業ニテモ概シテ莫大ナル損害ヲ成スモノナルガ故ニ、若シ之ヲ廢セントスルトキハ當局者ニ於テハ先ヅ其以前ニ能ク熟考ヲナシ、飽ク迄盡力勉勵シテ其事業上ノ妨害ヲ除キ改良ヲ謀リ其利益ヲ増加スルコトヲ勸メ、然後全ク其方ナキトキニ至リ着手スベシ。然レドモ日本ニ於テノ官有鑛山ハ如何ナル方法ニ依テ利益ヲ増加シ、又損害及補足費ヲ免ガレ又成ルベク之ヲ減ズルヲ得ルヤハ小官前陳ノ如ク鑛山技術家ニモアラズ、又官有鑛山ノ管理方及其營業法ヲ熟知セザルヲ以テ之ヲ判定シ難シ。小官ハ巡廻中他ノ行政部分ヨリ往々枝葉ニ涉リタルトキ僅ニ鑛山局管理方ノ一部分ヲ實驗シタルニ過ギズト雖モ、一般ニ之ニ均トシキモノトスルトキハ官有鑛山ノ從來純益ナクシテ常ニ損害ノミヲ釀出セシハ現勢ノ當ニ然ルベキ所ト想察ス。而テ其缺乏ノ何ノ點ニアリヤト問ハ、官吏其人ヲ得ザルニ外ナラズ。凡官吏ハ此職ニ適セザルモ或ハ彼職ニ當ルトキハ充分其職務ヲ盡スニ足ル者アリト雖モ、顧フニ日本官吏ノ位置ハ多ク其職ニ適セザル人ヲ以テ之ニ充ルノ弊アルニ似タリ。又官吏ノ更迭轉任ハ職務上大ニ障碍アリ。若シ一ノ官吏ニシテ行政ノ一部ニ任ジ、其事情ニ熟練シタル者アリ、之ヲ他ノ行政部

分ニ轉任セシメラル、トキハ此ノ官吏ハ此ノ行政部分ニ於テ其技術及能力經驗等ヲ表スル能ハザルノミナラズ、如此キ轉任ノ數々行ハル、トキハ行政上ノ働キハ爲ニ減殺セラル、ニ至ラン。此ノ故ニ普國ニ於テハ諸官廳ノ官吏ノ其奉職官廳ヨリ他ノ官廳ヘ轉任スルヲ固ク禁ジタリ。殊ニ鑛山局山林局關稅局郵便局又ハ裁判廳地方廳會計鐵道局高等學務局等ニ奉職ノ官吏ハ總テ主任ノ職掌ヨリ他ノ職ニ轉任セラル、コトナシ。又各官吏モ最初自己ノ仕官セント欲シタル官廳ニ於テ其位置ヲ得タルトキハ終身此ノ官廳ニ於テ奉任ス、又其仕官ヲ望ミ登用セラレタルトキハ先ヅ其官廳ニ於テ見習ノ爲メ確定シタル年限ヲ終ヘザルベカラズ。此ノ間萬事長官ノ指揮ニ隨ヒ事務ヲ取扱フヲ以テ自ラ之ニ熟ス、新任ノ者ハ初メ其官廳ニ屬スル雜務(最下等ノ事務)ヲ取扱フヲ例トス。故ニ普國ノ工部大輔兼鑛山局長ハ鑛山局管理ノ事務ヲ取ルニ當テ一時坑夫トナリ、器具ヲ携ヘ坑内ニ入りテ平常ノ坑夫ノ如ク仕事ヲナサルベカラザルコトアリシ、普國ニ於テハ往古ヨリ官吏ヲシテ一定ノ官廳ニ奉職セシメ、其事務ノミヲ取扱ハシメタルニ由リ大ニ其效ヲ奏シタリ。諸官廳ニハ各々試験委員ヲ備ヘ置キ、之ヲシテ實地見習ノ期限ヲ終ヘタル者ノ必要ナル學識アルヤ否ト、又能ク其ノ職務ヲ盡スヲ得ルヤ否トヲ試験セシム。又諸官廳ニ於テ高等官吏ノ位置ヲ得ント欲スル者ハ、實地見習前ニ數年間大學ニ於テ専門學科ヲ修メ其試験ヲ受ク例ヘバ高等ノ鑛山官吏トナランコトヲ欲スル者ハ、普通教育ヲ中學ニ受ケ、卒業ノ上數年間鑛山學校ニ入テ其科ヲ

修メ、山林家タラント欲スル者ハ、山林學校ニ於テ之ヲ學ビ、裁判官タラントスル者ハ大學ニ於テ法理學ヲ修メ、行政官タラントスル者モ亦大學ニ於テ法理及經濟學ヲ研究セザルベカラズ。凡ソ普國ニ於テ仕官ヲ欲スル者ハ總テ斯クノ如ク學術及實地ノ技倆アル者ニアラザレバ其位置ヲ得ル能ハズ。而テ又官吏ハ固ヨリ其修メタル専門ノ官廳ニ於テ其位置ヲ得ルモノトナル、日本ニ於テハ此ノ如キ官吏登用ノ制規ナキガ故ニ一ノ官廳ニ仕ヘ其事務ニ漸ク熟達シタル官吏ヲ事情ニ因テハ急ニ他ノ官廳ニ轉任セシムルコトアリ、是レ普國ノ組織ニ反スル所ナリ。日本ノ組織ハ既ニ如斯ナルヲ以テ其當ヲ得ザルノミナラズ、大ニ分業法ニ違背スルモノト謂フベキナリ若シ試ミニ急ニ農夫及農業者ヲシテ商人鍛冶靴師大工仕立職等ノ工業ニ轉ゼシメ、或ハ工業者ヲシテ農事ニ就カシメナバ、各其長所ヲ失ヒ充分ニ働キヲナス能ハザルヲ以テ、大ニ人民ノ幸福ヲ妨害スルナラシ、諸官廳ノ官吏ニ於テモ亦何ゾ之ニ異ナラン。凡ソ工業ヲ營ミ生計ヲ立テント欲スル者ハ社會一般ノ例トシテ専ラ其業ノミヲ勉勵シ、漸ク其道ニ達スルヲ得ベシ。任官ヲ欲スル者モ亦其専門ノミヲ修メ、其官廳ノ事務ニ熟練セザルベカラズ。普國現行ノ組織ハ大約如斯日本ニ於テモ新任官吏ヲ只其官廳ニ於テノミ使用シ、此ノ官廳ヲシテ此ノ官廳ニ關スル事務ヲ實地取扱ハシメ、之ニ熟練セシムルノ方法ヲ設クルコト最モ必要ナリ。何ントナレバ日本ニ於テハ普國ノ如ク官吏登用ノ際學術上ノ試験ナク、殊ニ高等學校及諸専門ノ學者ニ乏シキヲ以テ、今其試験法ヲ急ニ設ク

ルコト難ケレバナリ。尤教育上ノ方法ニ付テハ小官ノ友人「テヒヤウ」追テ意見ヲ陳述スベク、又漸次ニ改良スルヲ得ルナラン。然リト雖モ一定ノ官廳ニ奉職ノ官吏ハ終始之ヲ其官廳ニ使用シ、決シテ之ヲ他ニ轉任セシメズ。而テ事務見習ノ期ヲ設ケ之ヲ終ルトキハ相當ノ試験ヲナシ、本官ニ登用スルノ方法ヲ設クルガ如キハ敢テ其難カラザルヲ信ズ。又高等官吏ノ地位ニハ屬官ヨリ順序ヲ經テ昇等シタル者ヲ擧グベシ。鑛山山林農務其他重ニ技術ヲ要スル官廳ニ於テハ就中ノヲ必要トス。日本ニ於テハ鑛山關稅學務種畜等總テ縣令ノ管理ニ屬スト雖モ、普國ニ於テハ是レ等ノ爲メ別ニ管理局ヲ置テ其事務ヲ管掌セシム。日本ニ於テモ如此キ管理局ヲ新設シテ縣令ノ職掌ヲ限制スルコト甚ダ必要ナリ。此新局ノ設置ニ就テハ小官別ニ意見ヲ陳述セント欲ス。然リト雖モ日本鑛山ハ大抵其周圍ノ小ナルヲ以テ、鑛山警察及收稅局ヲ兼ネタル鑛山局ヲ設ケ、從來縣令ノ負擔セシ鑛山事務ヲ之ニ取扱ハシムルハ果シテ其當ヲ得タルヤ否ニ至テハ小官ハ經驗ニ乏シキヲ以テ未ダ容易ニ之ヲ判定スル能ハズ。最モ此問題ハ鑑定者ヲシテ熟考セシメンコトヲ希望ス。普國ニ於テハ鑛山局ノ數五アリ、此ノ鑛山局ハ總テ鑛山警察ヲ掌リ民有鑛山ヲ保護シ官有鑛山ヲ管理シ、及財政ニ關スル坑物稅ヲ收納ス、日本ニ於テ如此キ鑛山局ヲ設置セント欲スレバ其場所ハ一ハ北部一ハ中央一ハ南部ニ置クヲ適當トス。又日本ニテハ此ノ三局ニテ蓋シ充分ナルベシ。又此ノ鑛山局ハ工部省ノ管轄ニ屬シテ官有鑛山ノ官吏ハ長次官ヲ始メ總テ鑛山局ニ隸屬ス。而テ

大概學術經驗アリテ民有ノ鑛山持主ニ對シテ鑛山警察ヲ施行シ、官有鑛山ノ營業ヲ能ク勸奨シ成ルベク多クノ純益ヲ收穫スル者ヲ以テス。

第九 日本鑛法ヲ普國鑛法ニ比スレバ未ダ不完全ナルモノ多シ。普國坑法ハ眞ニ實際ニ適當スルヲ以テ「バイエルン」及其他ノ國ニ於テハ其儘之ヲ採用セリ。日本ニテモ之ニ準據シテ鑛法ヲ改正セラル、トキハ必ズ日本ノ坑業ヲ進メ、國家人民ノ幸福ヲ増スヤ更ニ疑フベカラズ。因テ小官ノ閣下ニ對シテ切ニ希望スル所ハ千八百六十五年六月二十四日ニ布告シタル普國鑛法ヲ反譯セシメ、其必要ナル條件ヲ探テ日本坑法ヲ改正スルノ點ニアリ。悚々拜具

千八百八十四年十二月廿四日

カール、ルードルフ

參議兼宮内卿制度取調局長官 伊藤公閣下

秘書類纂 工業關係資料 終

秘書類纂 工業關係資料

人名索引

(イ)

伊藤 博文 三〇、二七四
絲原 權造 一四三
石掛仁左衛門 三三五

(ハ)

長谷川芝之助 五、二
原田 宗助 三
濱 崎 三五

(ル)

ルードルフ 二五、二七四

(ヲ)

人名索引

小花 冬吉 五、七、八

大塚 專一 五、二五、二七、三七

大庭眞島二郎 一四三

大石 救馬 一八六

大石清太郎 一八六

大石彦三郎 一八六

大石和太郎 一八六

大石淳之助 一八六

小野善右衛門 三五

(ワ)

和田維四郎 五、二

(カ)

河瀬 眞孝 五、六

加藤 泰久 五、一五

金子堅太郎 三五

(ヨ)

横山久太郎 一七四、一七五

(タ)

田邊長右衛門 一四三

田中長兵衛 一六六、三六六

高須清兵衛 三三五

(ソ)

添田 壽一 五九、七〇

(ツ)

常喜秀五郎 五九、一七六

(ネ)

ネ ト ウ 二五九、二六九

(ナ)

内藤 政共 五、三

南部彌六郎 三三五

中野 大助 三三五

(ノ)

野呂 景義 五、三、五九、一六六、三三四

(ケ)

澤邊 春水 五九、一七六

櫻井三郎右衛門 一四三

酒井 八郎 一七七

(ミ)

宮原 二郎 三

(ス)

杉村 次郎 五九、一四三

杉山 揖吉 一四六

グリヒース 二五九

(ヤ)

八木 廣 一七七

(マ)

松方 正義 三

牧野 毅 五、三

(コ)

後藤象二郎 一三、三〇

近藤喜八郎 一四三

小寺幸次郎 一七六、一七九、一八五、一八六

(テ)

テ ヒ ヨ ウ 二七三

(ア)

青木 周藏 七〇

有島 武 五、五、六〇

(サ)



昭和十年十月二十八日印刷
昭和十年十一月一日發行

(非賣品)

料資係關業工・業實

製複許不

校訂者
發行者
印刷者

平塚篤

平塚篤

守岡功

東京市杉並區上荻窪九六二

東京市本所區厩橋一丁目廿七
凸版印刷株式會社本所分工場

東京市麴町區內幸町大阪ビル內

秘書類纂刊行會

電話銀座(57)五五八八番
振替東京三一六六四番

타 7B 95







